法政大學
社会学部同窓会
同窓会会報
第17号

発行　法政大学
社会学部同窓会事務局
（月・水）
住所　〒194-0298
東京都町田市相原町4342
☎・FAX 042-783-2421

2000・9・30

法政大学創立一二〇周年記念式典

芝・新高輪プリンスホテルで開かれる

HOSEI 法政大学創立120周年記念式典

プリンスホテルの中でもとくに大きなホールの「北辰」であったが、参加者でいっぱいになる盛況であった。清成総長の式辞はスクリーンの画像を駆使したビジュアルな講演となっていて、二一世紀に向けて飛び立つ法政大学の首途にふさわしいものであった。

鳥居泰彦慶應義塾大学塾長が私立大学連盟を代表して祝辞を述べ、遠藤光男元最高裁判事が卒業生代表として挨拶するなど、参加者一同を魅了する顔触れのスピーカーによる熱弁がふるわれた。

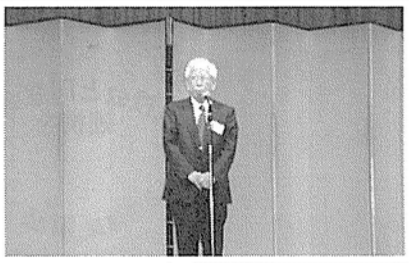
とかく、この種の会合における挨拶には、内容のない空疎なものが多く、退屈するものであるが、この日は違っていた。一人一人のスピーチが特異なものであったこともあるが。おそらくは一〇〇〇人を超えたと思われる参加者が静聴せざるをえない充実した内容の話であった。

清成総長式辞（要旨）

法政大学はいまや一〇学部の総合大学となった。新企画の大学院もスタートした。過去の伝統をふまえて新しい地平に到達したのである。

二一世紀はIT革命の時代で、法政大学もそのような社会的ニードへの対応を迫られている。法政大学の建学者ボアソナードの出身地は南フランスのアンティーブであるが、そのアンティーブがIT革命の基地となっている事実は象徴的である。

近代化を推進してきた法政大学は、その伝統の上にIT革命の担い手としての新たな場を構築しなければならない。



式辞を述べる清成総長

鳥居慶應義塾大学塾長祝辞（要旨）

明治三五年、専門学校令が出て私立大学六校が誕生した。この時から法政大学は慶應義塾大学や早稲田大学とともに私学の朋友となった。大正七年に大学令が出て「専門学校」から一歩踏み出した大学となった。この時の七大学にも法政大学は慶應や早稲田の朋友として加わっている。

私立大学が日本の高等教育の担い手となる歩みにおいて、法政大学はつねに重要な位置を占めてきたという経過を評価したい。

戦後、私立大学は戦災からの復興、新制大学への切り換えと重い課題に直面してきた。その中で、各大学は建学の精神を発揚するために懸命な取組を続けてきたのであるが、法政大学が今日の隆昌を迎えるにいたったについてはご同慶のいたりという感が深い。

ここで私が思い浮かべるのはかつての大内兵衛総長の言葉である。「われらの願い」という言葉を残されているが、この言葉はまさに私学の理念を代表する言葉となっていると思われる。

私学が育てる人物は、大内総長が言われるように、独立自由な人格の持ち主でなければならない。ヒューマニズムの持ち主でなければならない。社会生活向上のため、社会に「一石一木」を加える有用な人物でなければならない。

法政大学はその伝統を継承し、社会に貢献する有為の大学でありつづけなければならないと思う。

私が最高裁にいたとき、一五人の判事の中で私学出身は私一人であった。私学の機能を、日本社会の中でもっともっと発揮しなければならないと思っている。

われらの願い

一、願わくは、わが国の独立を負担するに足る自信ある独立自由な人格を作りたい。

一、願わくは、学問を通じて世界のヒュマニティの昂揚に役だつ精神を振作したい。

一、願わくは、空理を語らず日本人の社会生活の向上発展のために、たとえ一石一木でも必ず加えるような有用な人物を作りたい。

一九六三年八月　大内兵衛

（右が鳥居氏によって読み上げられた「我らの願い」です。）

◇　◇　◇

〔注〕以上の清成総長の式辞、鳥居慶應義塾大学塾長の祝辞、左の遠藤校友代表の挨拶は編集部のメモによる要旨で**文責編集部**です。

遠藤卒業生代表挨拶（要旨）

私の戦死した兄は法政大学の卒業生でした。その兄に連れられて神宮に野球の応援に行ったときから数えると、私の法政大学との関係は、一二〇年の歴史の半分の六〇年になります。卒業後一貫して法学部の教壇に立ってきました。法政大学のことを語るとなると血がさわぎます。

ボアソナード博士の功績は、日本の民法典の成立に寄与しただけでなく近代市民社会の成立に大きく貢献したところにあると思う。

当日の多彩な催しものの中で、もっとも会場をわかせていたのは小島奈津子フジテレビ・アナウンサーによる参加者各氏へのインタビューであった。とくにプロ野球解説者である関根潤三氏とのやりとりは、まるで掛け合い漫才のような雰囲気となり、時間の経つのを忘れさせる一幕となっていた。今年五月、チョモランマで世界最高齢登頂記録を更新した山本俊雄氏らのグループも登壇し、このような場ならではの裏話を披瀝していた。この日、大学は、創立者である金丸鉄、梅謙次郎、富井政章などという人たちのお孫さんその他ゆかりの方たちをお招きした。壇上でご挨拶をいただいた方もいる。これは、大学として最大の功労者を遇するにふさわしい配慮であったと参加者に歓迎されていた。

小島奈津子（フジテレビ）のインタビューを受ける関根潤三氏

資料展

「目で見る法政大学の歩み」

目で見る
法政大学のあゆみ

大学創立一二〇周年と法大図書館一〇〇周年を記念して写真展「法政大学の歩み」が九月二十九日から一〇月一〇日まで開かれました。（右側写真がその受付所風景）。期間中の来場者は約二〇〇〇人と盛況でした。

今回初公開の写真を含め大学史と図書館の貴重図書を紹介する数多くの写真に多くの人が見入っていました。キャプションが詳しいので読める写真展となっていて好評でした。近代史の専門家が二日連続で見学に来ていた例もあります。

この写真のために関係者が払った努力は大変なものでありました。夏休みはほとんど返上されていました。それにしても、大学百年史刊行以後、この二〇年間にわたって大学史資料室の活動があり、そこでコツコツと記録文書や写真を集めてきた努力がこの写真展になったと思われます。ぜひ、今後とも大学の一機構として大学史資料室の制度が残されて強化されることを希望したいものです。

今回の写真展は図書館の一〇〇年を記念する意味ももたせられていました。明治法制史や近代思想史に関係する貴重文献の層の厚さとその量の確かさが展示場に示されていました。大学の生命は図書館にあるのでした。

右の校歌斉唱の写真は『法政』一〇月号。他は近藤栄一氏撮影。上の写真は当日参加した同窓会の面々。

2000年度

同窓会費・寄付 納入のお願い

毎年、定期的にご報告申し上げているように、社会学部同窓会の財政は約四〇〇万円の収支で、それなりに「健全財政」となっています。

しかし、いかんせんその規模の小ささのため思い切った事業の拡張ができない現状にあります。当面の課題としては、たとえば『同窓会会報』の増ページであるとか、カラー刷り化があります。または、アルバイト費用の増額による同窓会ホームページの立ち上げと継続があります。これらのためには、従来の財政規模をもうひと周り大きくする必要があります。そのため、今回、会費の納入を是非よろしくとお願いする次第です。

＊　＊　＊

同封の振り込み用紙をご活用ください。

一二〇周年記念募金も続けてよろしく。

年会費を納めていただいた方はぜひご寄付を！

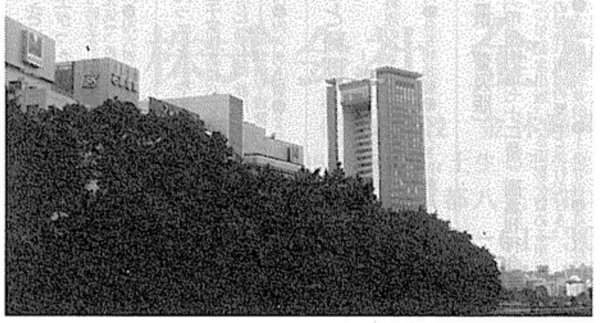
国際シンポジウム

「開かれた法政」

三日間にわたって開催

一二〇周年記念であるとともにボアソナード・タワー竣工記念でもある国際シンポジウムが、一〇月一～三日、基調講演のほか六セッションにわたって開かれた。その内容はやがて報告書となると思われるのでここでは省略。連日各方面からの出席者で会場がいっぱいであったことだけを報告させていただく。

それにしても今回のシンポジウムを通じて感じられたのはボアソナード・タワーの大学シンボルとしての機能発揮ぶりである。都心にあって高層で機能的でありながら落ち着いた雰囲気のボアソナード・タワー二五階、二六階はシンポジウムに最適合の環境であった。

卒業生の皆さん、何かの機会にボ・タワーへぜひお出でください。　＝編集部